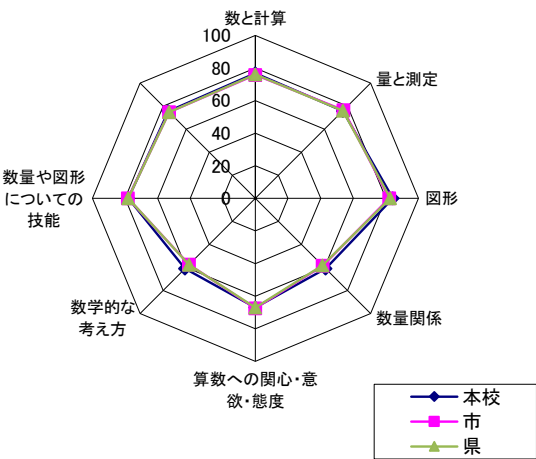


宇都宮市立富士見小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.8	75.8	76.1
	量と測定	75.9	76.5	76.0
	図形	84.3	82.1	82.7
	数量関係	60.9	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	67.0	67.4	67.0
	数学的な考え方	61.0	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	78.0	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	75.6	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本領域の平均正答率は76.8%で、県の正答率を0.7ポイント上回った。 ○「文章問題を解くための除法の式を選ぶことができる」の平均正答率は76.9%で、県の正答率を12.0ポイント上回った。 ●「かけ算の筆算に出てくる数の意味を理解している」の平均正答率は24.6%で、県の正答率を6.9ポイント下回った。	・基本的な計算技能の向上を目指して、朝の学習などの時間を活用し、繰り返し問題練習に取り組む。 ・位をそろえて計算したり、数の大きさを考えたりすることができるよう、小数を扱う単元においても位取りに留意して問題を解けるよう指導する。
量と測定	●本領域の平均正答率は75.9%で、県の正答率を0.1ポイント下回った。 ○「身近にあるものの重さの単位について理解している」の平均正答率は82.1%で、県の正答率を5.8ポイント上回った。 ●「2つの時刻を比較して、その間の時間を求めることができる」の平均正答率は70.9%で、県の正答率を5.4ポイント下回った。	・時刻と時間に関する概念を再確認し、日常生活の中で活用する機会を増やしながらか定着を図る。 ・目盛りを正確に読み取るために、1目盛の大きさに着目できるように、長さ、重さなどを取り扱う単元では体験を通して確認していく。
図形	○本領域の平均正答率は84.3%で、県の正答率を1.6ポイント上回った。 ○「球の半径から、球が2個入った箱の辺の長さを求めることができる」の平均正答率は73.9%で、県の正答率を5.4ポイント上回った。 ●「正三角形を作図することができる」の平均正答率は87.3%で、県の正答率を2.5ポイント下回った。	・分度器やコンパスの使い方に重点を置いて指導し、図形の作図に生かせるようにする。 ・図形の定義や性質の理解を図り、意味を考えながら作図ができるよう指導していく。
数量関係	○本領域の平均正答率は60.9%で、県の正答率を2.7ポイント上回った。 ○「□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶことができる」の平均正答率は54.5%で、県の正答率を7.2ポイント上回った。 ●「□を使って、減法の式に表すことができる」の平均正答率は68.7%で、県の正答率を1.6ポイント下回った。	・自分の考えを文章化して説明することができるように、グループ等による話し合い活動を取り入れたり、算数的な用語を活用して学習の振り返りをしたりするなどの学習過程を大切に指導していく。